私自身、森の機能は「景観・生態・防災」の3つに大別されると考えており、特に防災については東日本大震災の後に“鎮守の森”が津波から残された姿を見ると、在来種の可能性を感じると共に今後の街づくりにも応用する必要があると思っています。また、現在の森林の多くを占めている人工林に関しては林業施業が行き届かない場所が散見されます。このような人工林を在来種の森林に変えることで災害にも強く、生物多様性にも貢献することができます。日本だけでなくヨルダン、フランス、インド、中国などで森づくりの指導をしてきた私自身の経験も活かして、日本に“森の設計士（Forest Architect）”という新しい職業を生み出し、森林全体を活用してビジネスと生態系を循環させる“森林業”を確立することで、日本が本当の意味での森林大国になると考えています。

東日本大震災の津波で残った“鎮守の森”

岩手県大槌町吉里吉里地区・天照御祖神社の鎮守の森（平成23年3月18日米軍撮影）
U.S.Navy photo by Mass Communication Specialist 3rd Class Dylan McCord

植樹祭で植えられた木々（高さ約50cm）と子供達の笑顔

植樹して3年後に撮影した様子

宮城県北上中学校：2016年7月30日撮影 植樹3年後

講演2 林業をもっと自由に！

プロフィール

飯塚 潤子（株式会社東京チェンソーズ）

1984年生まれ。茨城県つくば市出身。東京大学農学部森林環境科学専修卒。国際見本市主催会社に4年、林野庁の外郭団体に1年勤めた後、2013年東京チェンソーズへ入社。2016年に檜原村へ移住、2児の母。2023年より林野庁林政審議会委員。2024年よりミズとうきょう林業。

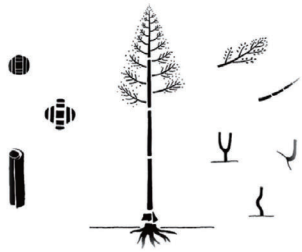
講演要旨

斜陽産業と言われて久しい林業ですが、戦後の拡大造林後、高度経済成長等を経て乱獲されることなく有史以来最大の森林蓄積量がある現在は、伐り、使われどきを迎えたとてもチャレンジングな時代であるといえます。今の子ども達にとって森は縁遠いもの、「きこり」は昔話に出てくるようなイメージのままかもしれません。しかし、ドローンの導入やSNSの発信等、若い人が参入することで少しずつ林業もアップデートされています。そうして林業を楽しいもの、カッコいいものとして発信し、多くの人に興味をもってもらい、巻き込んでいくことこそが、今の林業には必要なのではないでしょうか。この講演では、東京都檜原村を拠点とし、「林業をもっと自由に！」というスローガンを掲げる林業会社“東京チェンソーズ”が取り組む様々な森づくり、ものづくり、ことづくりについて紹介します。

東京美林倶楽部

社有林での搬出

トイビレッジ構想



1本まるごと販売